

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：羽幌地域生物多様性保全協議会

活動地域：留萌振興局管内 8つの市町村
(天塩町・遠別町・初山別村・羽幌町
・苫前町・小平町・留萌市・増毛町)

活動におけるテーマ

『 ゆたかな留萌地域(ローカルSDGs) × 海鳥(seabird)
= 留萌ローカルSeabirDGs 』

本事業への関わり：2年目

活動団体と地域の紹介

羽幌地域生物多様性保全協議会：

羽幌シーバードフレンズ

(SBF)推進協議会の財務機関

…羽幌町や北海道、環境省、漁協や農協、地域の事業者、地域づくり団体などで構成されている任意団体

<取り組み>

◆ **シーバードフレンズ(SBF)**

認証制度 (2017年～)

「**環境保全**」で「**地域振興**」を目指す
環境にやさしい取り組みを行う、

地域の事業者を認証・応援

→環境保全への意識や
取り組みを広める



◆ 地元高校と連携した環境学習

「総合的な探求の時間」を活用

授業数：年間約30時間 (2018年～)

留萌地域

：留萌振興局管内
8つの市町村

◆ 日本海に面した
南北に長い地域

◆ 天売島(羽幌町沖合)
→ 世界的な海鳥の繁殖地

◆ 海岸線178kmを縦断するルート
→ 「日本海オロロンライン」

<地域資源>

◆ **多様で豊富な食資源**

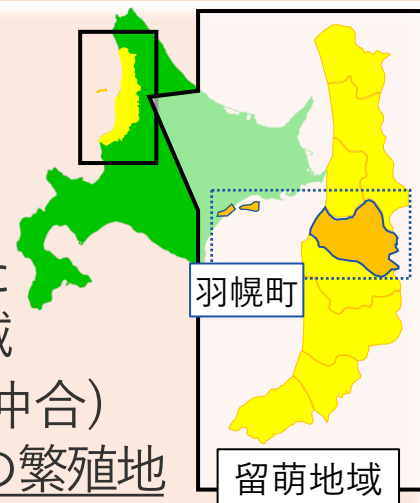
◆ **海鳥・渡り鳥のフライウェイ**

<地域課題>

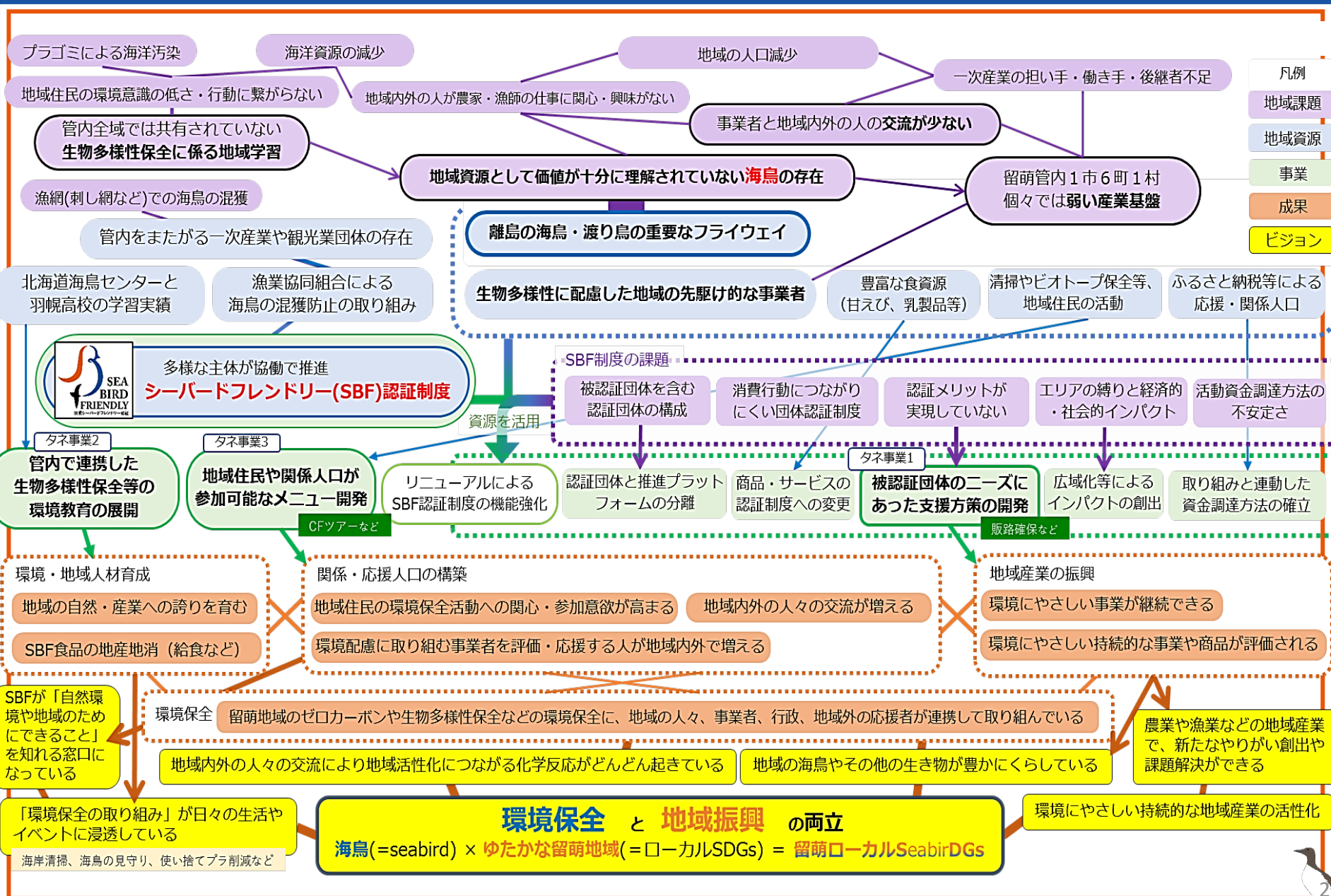
✓ **人口減少**

✓ **産業基盤がぜい弱**

✓ **環境保全・生物多様性保全
の意識が弱い**



現時点の地域版マングラ



活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して
解決したい地域の課題

✓ 将来のビジョンを話し合う
→ **地域ビジョンを具体化**

マルチステークホルダーパートナーシップ
を留萌地域で実践

地域のありたい未来

「**環境保全**」で「**地域振興**」を
【環境・地域人材の活躍】
【持続可能な地域産業の活性化】
【地域内外の交流の活発化】
【環境保全の促進】

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

SBF推進協議会を地域プラットフォームに

【地域のありたい未来を具体化】 ➤ ビジョン作成ミーティング

【地域プラットフォームの体制づくり】

➤ **SBF認証制度改定検討部会** ⇒ 新・SBF認証制度の認証基準・審査体制

【関係・応援人口の構築】

➤ クラウドファンディング(CF)寄付者アンケート ➤ 地域事業者向けモニターツアー

【環境人材の育成】 ➤ 羽幌高校と連携した環境学習

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ◆ 多様で豊富な食資源
- ◆ 海鳥を守る取り組みに賛同するCFの寄付
- ◆ 生物多様性に配慮した地域の先駆け的な事業
- ◆ SBF認証制度

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ

外部機関？

SBF 認証
審査機能



内部部門？

協議会の広域化：
留萌管内全域へ

地域づくり
団体

環境省

北海道

環境関連 SBF推進協議会
団体 (SBFプラットフォーム)

羽幌町

教育機関

業界団体

地域の事業者

SBF商品の
開発・販売 売上

CF寄付・
取組参加

支援・再投資

成果報告

応援人口：消費者・関係人口(寄付者)

ステークホルダー

←新たに加わってほしいSH

- ◆ 若い農業者
→ 農業青年部など
- ◆ 若い漁業者
- ◆ 食品加工業者
- ◆ 金融機関
→ 留萌信用金庫
- ◆ 管内の市町村の
農協・漁協の支部

←想定している課題・阻害要因

- ✓ 認証を受ける事業者と
審査する機能が混在
→ **審査機能の分離**
- ✓ 認証を目指す人増やしたい
→ **簡単すぎても×**
- ✓ プラットフォームに入る
メリットやモチベーション
→ **参加しやすいメニュー
の創出**



地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

「環境保全」が「地域振興」になる地域へ

【環境・地域人材の活躍】環境保全の取り組みが日常生活や仕事に浸透

【持続可能な地域産業の活性化】 【地域内外の交流の活発化】 人材、ビジネス創出

【環境保全の推進】 マルチステークホルダーパートナーシップで環境保全を

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

長期的 ▶ 留萌管内で連携した広域的な環境教育

- ▶ SBFプラットフォームのメンバーが参加しやすいメニューの創出
 - SBF認証制度を活用したビジネスモデル(成功例)の打ち出し
 - 海鳥等の環境関連イベント
- ▶ 認証事業者への支援策の具体化
 - 一般向け(CF寄付者、小・中学生など)のモニターツアー
 - SBF認証商品の開発支援

中期的 ▶ 新・SBF認証制度の試行と制度の柔軟な見直し

今年度取り組みたい事 (本事業でチャレンジしたい事)

【地域のありたい未来を具体化】 ▶ **ビジョン作成ミーティング**

【地域プラットフォームの体制づくり】 ▶ 新・SBF認証制度の設計(基準、審査体制)

【関係・応援人口の構築】 ▶ **CF寄付者にアンケート**、 ▶ **事業者向けモニターツアー**、

▶ 誘い込みたいSH(認証候補の事業者、地域団体、消費者 etc...)との関係づくり

**SBF 認証制度
改定検討部会**

年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフ ←協定締結	→ステークホルダーミーティング (SHM) →中間共有会 →共生圏フォーラム								◆成果報告会 ◆活動団体成果報告書提出
地域プラットフォーム構築				◆(7月)ビジョン作成SHM(第1部) / 第1回協議会/総会 ◆(7月)天売・焼尻島でビジョン作成SHM(第2部)								◆(2月)第2回協議会 ・新制度の承認 → R5年度から新制度試行
SBF認証制度リニューアル (SBF認証制度改定検討部会)			・(6月)信金×製品認証 ◆(6月～)【部会】漁業の認証体制		◆(8月～)【部会】農業の認証体制		◇(10月～1月) ※シン技術と4つの柱、申請書文書作成 申請文書に意見を反映 ◆(10月～1月)申請主体との意見交換					
モニターツアー開発及び関連団体との連携			→(6月) ツアー招致候補探し →(6月中旬) おらが島×ツアー開発	→(7月～8月上旬) 招致事業者との調整	◆(8月下旬～9月上旬) 事業者向けモニターツアー							→(10月～)【事業者WG】商品開発・支援策
資金の確保 (GCF等の寄付)				◆(6月下旬)寄付に係る勉強会 クラウドレイジング協会 ◆(7月中旬)寄付者への報告会 →アンケート・インタビュー ◇(8月)GCF計画書提出 →◇(8月～10月上旬) 協議会資金の仕組み変更/GCFの仕組み変更			◇(9月下旬～11月) GCF実施期間					・(2月) R5年度活動の予算を編成
環境教育 (高校連携授業) その他の普及啓発イベント			→前期授業		◆(仮)イベント		→後期授業		◆(仮)イベント			・全校発表 ・全国発表大会
		13日 講話1 20日 施設見学	16日 樹木調査 22日 まとめ	13日 生物調査 22日 まとめ		12日 講話2 21日 海岸清掃 27日 プラ調査	31日 講話3					